

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画年計画の3年目)

1. 研究課題

人の分類と人種化に関する国際比較研究

A Comparative Study of Classification and Racialization

2. 研究代表者氏名

竹沢 泰子

Takezawa Yasuko

3. 研究期間

2020年4月-2023年3月(3年目)

4. 研究目的

本研究は、ある社会や地域の人間が他者をどのように分類し、名づけ、また人種化するか、それがどのように社会経済的不平等を生産・再生産するかを考察する。人の分類や人種化においてどのようなマーカー（目に「見える」身体的相違であれ、「見えない」神話的な身体的特徴とされるものであれ、あるいは差異と認識されるものの文化的具現であれ）が動員されるかを吟味する。

具体的には、ひとつは、『環太平洋の移動と人種』に加筆修正を加えて英語版を作成する。その際、アジア型の人種化と環大西洋型の人種化が、人の移動によって遭遇し、絡み合う交渉の場として環太平洋を捉えなそう。第二は、フランスの EHESS-TEPSIS との日仏共同研究をさらに発展させ、南北アメリカと異なるヨーロッパと日本の共通性、また互いの差異を考察する。第三は、遺伝子検査ビジネスにかんする文理融合の国際共同研究である。具体的には、遺伝子検査会社のウェブサイトにおける「祖先分析」をめぐる日本語・中国語・英語の記述を比較し、それぞれの社会的傾向を探る。

This project aims to examine the ways in which people in certain societies or regions categorize others, label and racialize them - resulting in the production and reproduction of various forms of socio-economic inequality. It investigates the markers mobilized to categorize and racialize others, whether they are visible phenotypical differences, invisible and mythical bodily features, or cultural embodiments of perceived "differences," which may relate to the unequal distribution of resources and power. The project addresses how various processes of racialization are reproduced or transformed over the years.

We will conduct this project using three different approaches. One approach is based on an international comparison between various different websites, written in Chinese,

Japanese and English, relating to genetic testing. It is organized around the research subjects' "discovery" of their respective ancestries. The second study aims to articulate the similarities and differences in racialization between Japan and Europe by a collaborative study with the EHES in France. Thirdly, we will continue our discussions on the Trans-Pacific as a space of negotiation between racialization pronounced in Asia and one in the Trans-Atlantic and how the intertwined and nested structure manifest in the Trans-Pacific.

5. 本年度の研究実施状況

本年度は、最終年度として成果公開のための出版打ち合わせなどを優先的に行なった。具体的には、人間の「ちがい」と差別についても、研究会を重ねた。『環太平洋地域における移動と人種』の英語版を作成するために、研究会を実施し、その結果、以下にあるように、Race and Migration in the Transpacific (田辺明生氏との共編) を Routledge から出版することができた(2023.1)。また遺伝子検査ビジネスに関する共同研究も、その成果を掲載した Anthropological Sciences 特集号 Genetics, DTC, and Their Social Implications が 2023.2 に出版される予定である。さらに人種と人種主義の可視性・不可視性については、Routledge から査読の上、出版が決まり、今年中に、Visibilities and Invisibilities of Race and Racism が Yasuko Takezawa, Faye V. Harrison, and Akio Tanabe eds.として出版される予定である。

6. 本年度の研究実施内容

2022年4月8日：オンライン開催 メキシコの Monterrey 大学で日本の人種概念の発展史について講演 発表者 竹沢泰子 人文科学研究所

7. 共同研究会に関連した公表実績

Yasuko Takezawa and Akio Tanabe eds., Race and Migration in the Transpacific (Routledge, 2023); Special Issue, Genetics, DTC, and Their Social Implications Anthropological Sciences (Yasuko Takezawa guest editor, 2023), など。

8. 研究班員

所内

竹沢 泰子、石井 美保、瀬戸口 明久、ティル・クナウト

学内

芹澤 隆道(東南アジア地域研究研究所)、徳永 悠(人間環境学研究科)

学外

山極 壽一(総合地球環境学研究所)、松田 素二(総合地球環境学研究所)、斎藤 成也(国立遺伝学研究所)、海部 陽介(東京大学総合博物館)、田辺 明生(東京大学文化人類学研究室)、陳 天爾(早稲田大学国際学術院)、木村 亮介(琉球大学医学研究科)、関口 寛(同志社大学人文科学研究所)、長 志珠絵(神戸大学国際文化学部研究科)、太田 博樹(東京大学

大学院理学系研究科)、John Russell(岐阜大学地域科学部)

9.共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数 (必須)	受入人数				延べ人数					
		総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生	総計	海外研究者	若手研究者 (40歳未満)	若手研究者 (35歳以下)	大学院生
人文研所属 (内女性)											
京大内 (人文研を除く) (内女性)											
国立大学 (内女性)											
公立大学 (内女性)											
私立大学 (内女性)											
大学共同利用機関法人 (内女性)											
独立行政法人等公的研究機関 (内女性)											
民間機関 (内女性)											
外国機関 (内女性)											
その他 ※ (内女性)											
計	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※「その他」の区分受入がある場合
具体的な所属等名称を記載：例) 高校教員
無所属の場合は機関数0とカウントし、この欄の記載不要

10. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

	共同利用・共同研究による成果として発表された論文数			
			うち国際学術誌掲載論文数	
①人文研に所属する者のみの論文(単著・共著)				
②人文研に所属する者と人文研以外の国内の機関に所属する者の論文(共著)				
③人文研以外の国内の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				
④人文研を含む国内の機関に所属する者と国外の機関に所属する者の論文(共著)				
⑤国外の機関に所属する者のみの論文(単著・共著)				

本年度発表されたインパクトファクターを用いることが適当ではない分野等

	雑誌名（必須）	掲載論文数（必須）	掲載年月日（必須）	論文名（必須）	発表者名（必須）
1	『朝日新聞』	1	R5.1.4	新年特集企画「『覚悟』の時代に」「人種も社会的に作られた分類したがる私たちは差別をなくせるのか」	竹沢泰子
2	『移民研究年報』29号	1	R4.8	「移民研究の可能性—トランスパシフィック 研究の視点から」	竹沢泰子
3	<i>Anthropological Science</i> 131(1), pp. 1-2	1	R5.2	Preface to the Special Issue on Genetics, DTC, and Their Social Implications	Yasuko Takezawa
4	<i>Anthropological Science</i> 131(1), pp. 3-13	1	R5.2	Comparing direct-to-consumer genetic testing services in English, Japanese, and Chinese websites	Kentaro Nagai, ... Yasuko Takezawa
5	<i>Anthropological Science</i> 131(1), pp. 15-25	1	R5.2	On gene-ealogy: identity, descent, and affiliation in the era of home DNA testing	Sarah Abel and Catherine J. Frieman
6	<i>Anthropological Science</i> 131(1), pp. 27-31	1	R5.2	Genetic technologies and the interplay between public desire, commercial interests, and regulatory powers	Alessandro R. Marcon

7	<i>Anthropological Science</i> 131(1), pp. 33-43	1	R5.2	Social welfare and scientific racism in modern Japan: discriminated Buraku and the philanthropist Toyohiko Kagawa	Hiroshi Sekiguchi
---	--	---	------	---	-------------------

11.本年度共同利用・共同研究による成果として発行した研究書

	研究書の名称	編著者名	発行年月	出版社名
1	Race and Migration in the Transpacific	Yasuko Takezawa and Akio Tanabe eds.	R5.1	London: Routledge

12.博士学位を取得した学生の数(人)

	人数
博士学位を取得した学生の数	0

13. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由
なし

14. 次年度の研究実施計画
なし

15.次年度の経費
なし

16. 研究成果公表計画および今後の展開等
フェイ・ハリソン教授（2019 年 9-12 招聘）と田辺明生教授との共編著は、2023 年秋に *Visibilities and Invisibilities of Race and Racisms* として Routledge より出版予定である。